

平成15年度第3回県民活動審議会議事録

日時 平成15年9月10日
場所 県庁 共用第3会議室

【発言内容】

(会長)

皆様、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。今日は、パワーアップ賞の表彰式がありましたので、長時間にわたる会議となりますが、効率的に進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

では、議題(1)の「県民活動基本計画検討委員会の再開について」ですが、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(説明省略)

(会長)

ただいま事務局の方から説明がありましたけれども、基本計画を推進していく上で、この審議会に小委員会を設置する、名称は、「山口県県民活動促進基本計画検討委員会」のままとするということで前回皆様のご賛同をいただいております。

あらためて確認させていただきますがよろしいですか。何か、ご意見やご質問はございませんか。委員会を設置する件と名称前回のままという形でよろしいでしょうか。特にご意見がなければ、これで進めていきたいと思っております。

次に、委員の方の人選ですが、資料1の最後に事務局案が出ておりますが、これについて事務局から説明をしていただけますか。

(事務局)

(説明省略)

(委員)

ありがとうございます。事務局の方から説明がありましたけれど、検討していく内容を考えますと、安藤委員が適任かと思っておりますが、安藤委員、いかがでしょうか。

(安藤委員了解)

(会長)

ありがとうございます。では次に、議題(2)の「県民活動白書の作成」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(説明省略)

(会長)

はい、ありがとうございます。では、ただいま説明がありました白書に関しまして、ご意見やご質問をお受けしたいと思います。

(委員)

パワーアップ賞の活動事例等は、入るのでしょうか。

(事務局)

パワーアップ賞を全部紹介したかったのですが、写真や記事の手配等の都合で、今回は県民活動団体の事例の写真に3団体分を使わせていただいているだけです。

県民活動パワーアップ賞自体の説明は、来年度に実施できるよう努力したいと思います。

(委員)

今回は、期限が迫っていると思いますので、大きな変更というわけではないのですが、ボランティア活動が、かなり詳しく掲載されておりまして、写真がたくさん入ったのは良いと思いますが、県民活動を3分類に分けているのですから、コミュニティ活動、ボランティア活動、NPO活動それぞれをコラムのように囲んで写真で紹介する形がバランスがとれて良いのではないかというのが、私の意見です。

(会長)

パワーアップ賞に関しては、来年から反映させるということによろしいですか。

(事務局)

先ほど申しましたようにパワーアップ賞全部を紹介したかったのですが、写真の手配がつかないところがありまして今年は見送りました。ご意見を踏まえ、来年は検討したいと思います。

(委員)

NPO活動のところ、市民活動という言葉がでてきますが補足が必要だと思います。

(事務局)

基本計画ではこの市民活動は注釈を付けて説明をしておりました。白書もそうするかどうか検討したいと思います。

(会長)

目次を見ると字が詰まっていて見にくい感じがするのですが、例えば、第4部の市町村の取組みで、それぞれ市町村の取組みと県民活動支援機関・支援拠点の取組みが列挙してあるのですが、それぞれ必要なのですか。その地域の取り組みではためなのでしょうか。目次にしては多すぎるのではないかと思うのですが。

(事務局)

色々検討したのですが、今回、始めて白書を出すということで、ひとつの市町村域の中で、市町村の取組みもあれば、社協とか青少年とかの支援機関・支援拠点もありますので、やはり両方載せた方が、ページも検索しやすいのではないかとこのようにさせていただきました。ここまで必要はないというご意見が多いようでしたら、来年度以降は、検討したいと思います。

(委員)

先ほど、横田委員も言われたように、様々なボランティア活動ということで、ボランティア活動だけが何ページにもわたって細かく説明がされていますけど、これはボランティア白

書ではなくて県民活動白書なので、県民活動の全体的な視野に立った紹介の仕方が必要ではないかと思います。

（事務局）

今回は第1回目なので、まず一般の方に一番身近なボランティア活動の紹介をしようということがあり、併せて県の関係施策で最も多いボランティア促進施策を関連づけて紹介しようという意図から、こうした構成にさせていただきました。

次回は、もう少し時間をかけて他の活動とのバランスも考えていきたいと思いますが、今回は、まず県の施策と関連のあるボランティアの活動事例に限定してコラム的なものを作らせていただいたということで、ご理解いただけたらと思います。

（委員）

幅広いボランティアのジャンルを載せてあると思いますが、病院や施設に奉仕に行っている例がここに挙がっておりません。そのようなボランティアに参加している県民はかなり多いと思いますので、紙面の都合が許せば載せると良いと思います。

（事務局）

ボランティアの中でも、福祉関係のボランティアは最も多いと思いますが、そういったボランティアは、皆さんよくご存じであろうと思ひまして、あえて、県でいろんな部局が施策でやっているこういったボランティアもあるんですよという切り口で出してみました。だから、一般的なボランティアの紹介とは違いますので、御理解いただけたらと思います。

（委員）

やはり福祉ボランティアを1つぐらい入れたらいかがですか。ボランティアの中身は多様ですから全部は紹介できないでしょうが、ボランティアで代表的な部分が入っていないのは、それこそ縦割り行政の弊害だという批判が出てきそうな気がしますので、1つ項目として立てたほうが良いと思います。

（会長）

いかがでしょうか。

（事務局）

今回は、時間的な制約がありますので、間に合うかどうか検討させていただきます。

（委員）

少子関係で、子育てを支援するボランティアを是非入れていただきたいと思います。最後の方で、山口市の「てとてと」が出ていますが、ボランティアサークルがたくさんありますので、地域で子どもを育てるという視点で、1つ入れていただきたいと思います。

それから、ホールボランティア、美術館、図書館ボランティアは、同じジャンルとしますので、まとめたほうが見やすいと思います。

（会長）

並べ替えというのはできますか。

（事務局）

図書館、美術館は、スポーツも合わせて、学校、教育の分野ということでまとめました。

ホールは、教育よりも文化という視点から独立させました。第九の演奏会も文化ですが、こちらはメモリアルイベント関連ということでひとくくりにはしています。

(委員)

行政サイドの整理はそうかもしれませんが、一般の方から見たら、分野が、前後して見にくいと思いますが。

(会長)

例えば、グループ分けしておられるなら、そのグループの名称を、少しでも言葉を入れていくともっと分かりやすいと思いますけど。行数の関係もあると思いますが、そのあたりも併せて、ご検討いただけますか。

(事務局)

検討課題とさせていただきます。

(会長)

第2部に入りたいと思います。

写真が同じような大きさと並べられていますが、写真サイズの大小をつけるということは、白書ではなさらないのでしょうか。

(事務局)

だいたいこのような大きさと、レイアウトしています。

(会長)

余白が大きいところなどは、写真を大きなサイズにして変化をつけたほうが、おもしろいかなと思ったのですが。

(事務局)

どうしても、1つのページ行数が、全部いっしょというわけにはいきませんので、多少余白が出ることもあります。そこを写真等でカバーできるかどうか、工夫できる限りはしてみたいと思っております。

(会長)

第3部に移りたいと思います。

(委員)

主な分野における今後の県の施策展開というところで、青少年の健全育成の分野が追加されたのは大変うれしいことと思います。第1回目の審議会の時に出た意見が反映されて、喜んでいきます。

教育分野のところで、「青少年の社会性や豊かな人間性を育むため、学校内外を通じた奉仕・体験活動の機会充実を図る」というのは、大学・高校・中学までを全部含めた意味を持っているのでしょうか。学校とは、どの範囲のものなのでしょうか。

それから、奉仕というのは、ボランティア活動という意味を持っている日本語と考えるのでしょうか。

また、「山口国体の開催を視野に入れて」とありますが、その前に、次期山口国体が、平成18年度山口国体という語句を入れた方が、今年の白書という感じがして良いと思います。

(事務局)

最初の大学・高校・中学のいずれかというお話ですが、基本的には、県の教育委員会が所管する教育分野ということで、奉仕・体験活動の機会充実を図るということを教育委員会では、大きな施策として、様々な事業を考えているところだと思います。

大学は、あまり直接的な事業立てはないと思いますが、高校・中学校につきましては、奉仕・体験活動の機会を教育委員会の方でも中心になってやっていると思います。

もちろん、奉仕・体験活動の奉仕には、ボランティア精神というものが入っていると理解しています。山口国体のほうは、締切り時間が許せば、次期という言葉を入れるようにします。

(委員)

奉仕・体験活動というところで、ボランティア精神という説明があったのですが、今、ボランティアで奉仕という考え方はやめようという方向にある中で、奉仕という言葉が付いているのは、とても違和感を覚えます。

(会長)

奉仕という言葉に関して、いかがですか。

(委員)

昨年、私も奉仕・体験活動の学習を泊まりがけで、セミナーパークで受けたのですが、各市町村や学校でもこの言葉を使っていますように、文部科学省の方で、奉仕・体験活動という言葉が正式に採用しているようです。そのため、教育委員会の施策のひとつに入っていると思いますので、言葉だけの問題ではないのではないかと思います。

(委員)

もともと奉仕イコールボランティアではないということは、皆さんよくご存じだと思います。ただ、子ども場合には、いきなり自発的な活動はできないと思われるますので、大人がこういうことをしてみないかという形の中から、子どもが奉仕・体験活動に参加することによって、ボランティアに進めるように、関わる場を作ろうということで、全国的にこのような名称にしています。奉仕・体験活動という言葉をつけたときに、全国でもいろんな議論があったのですが、最終的な共通理解としては、奉仕活動によって、子ども達が自然に自分の力を身につけ、次に自主的なボランティア活動に入っていくというプロセスを考えて、現在は、奉仕活動という言葉が、全国共通で使われている状況です。

(会長)

はい、ありがとうございました。そのようなことを踏まえて、事務局ではこの言葉を使っているということでよろしいでしょうか。

(事務局)

この白書も基本計画もそうですが、県の各部局の共通理解の上で作成するというので、それぞれの分野につきましても、各部局に責任を持って見てもらっています。その中で、教育分野につきましては、教育委員会がチェックしておりますので、今、委員が言われたようなことを踏まえた上で、奉仕・体験活動という言葉を使っていると思います。

今のお話ですと、文部科学省が全国的に周知を図り、既に根付いているということでございますので、御理解頂けたらと思います。

(会長)

言葉の概念というのは、場合によって使い分けがされており、難しいと思います。ほかに、ございませんか。

(委員)

基本方針は、非常にコンパクトに良くまとめられています。

問題は、市町村及び県民活動支援機関との連携ということで、県民活動団体連絡会議、県民活動センターネットワーク会議とここに書いてあるのですが、こういった構成で何なのか、全く明示されていないのが気になる所です。

県民活動もたぶん、市町村合併の関係で、市町村レベルでの活動が重視されるだろう、あるいは、支援・サポートの活動を行う拠点が、重視されるだろうと思いますので、その点について、展望も含めて書いてあると良いと思います。

(事務局)

この部分につきましては、昨年いろいろ御協力の上で、作った基本計画を抜粋しておりますので、基本計画の中では連絡会議やネットワーク会議の語句説明をしております。白書は、基本計画を踏まえて作っておりますので、細かい(注)については載せておりませんが、わかりにくいということであれば、今後検討していきたいと思います。

(会長)

第4部に移りたいと思います。

(委員)

全体像が見えないのですが、これは、市町村にアンケート調査なさせて素材を集められたのですか。

(事務局)

そうです。市町村に調査をかけました。

(委員)

心配なのは、バランスがどうかということです。市町村においては、行政は、県民活動の状況をあまり把握していないんじゃないかという気がします。把握できなかった部分を、例えば、県民活動支援センターが持っている情報と突きあわせしながら、充たしていけると良いと思います。

(事務局)

この部分は、市町村における県民活動の状況を示すことが趣旨ではなく、市町村がどういった施策に取り組んでいるか、どういった形で、県民活動を盛り上げようとしているかという切り口から、章立てをしたいと考えております。

それで、私どもが直接市町村に問い合わせをして、様式を作りまして、どういった事業をやっているか、どういった考え方でいるかを聞いて、それぞれをまとめております。

初めは、それぞれ細かい事業まで載せるつもりだったのですが、あまりにも膨大な量になりすぎてしまいました。データとしてはそこまで載せたいのですが、読む方にとってはあまり膨大な量になると興味を失うでしょうし、なるべくコンパクトで分かりやすくしたいということで、こういう形になりました。

各市町村にはいろいろな資料を出して頂いたのですが、その中で特によさそうな所をピックアップし、こちらで原稿を作りまして、各市町村にフィードバックしております。その時

に要望があった点については、修正しております。

また、各市町村が自分のところの施策がどうなのかということのを他市町村と比較できるよう、個表を載せております。市町村でそれぞれ見て頂いて、自分のところは遅れているなという事がありましたら、それを反映していただきたいという意図で、ここは作っております。

安藤委員のおっしゃったような例えば、市町村でいろんな取り組みがあって、行政サイドで、拾いきれてないのではないかなというような御指摘もあろうかと思っておりますので、それは、来年の白書の中で、例えば、各市町村域での取り組みの中に代表的な活動事例を掲載するなど、県民活動支援センターの情報も必要になるかと思っておりますが、また、工夫したいと思っております。

(委員)

安藤委員のおっしゃったことの補足ですが、全体のバランスを考えたときには、アンケートをどこまでとるか難しいとは思いますが、コミュニティビジネスなどの例もありますよね。観光振興を目的にやっているのもありますけれども、例えば環境事業などはそれぞれの地域のコミュニティの協議会で、環境改善のための事業をお金を出してやっているのもありますよね。ですから、県民活動が、3つの活動を含む限りは、その3つのバランスを考えた形で、白書に盛り込んでいくということが、必要だろうと思っております。コミュニティ活動の場合は、非常に多岐にわたっているので、網羅するというのは難しいと思っておりますけど、そういう視点も、来年度以降入れて頂けたらと思っております。

(事務局)

わかりました。

(委員)

市町村は23団体と書いてあるのですが、自治体の数を数えるときに「団体」という言葉を使うことがあるのですか。

それから、勤労青少年ホームというのは馴染みがありませんがどこにどのような施設があるのか教えてください。

子育て支援事業で山口市の事例で出ている子育てほっとサロンの正式名称と事業内容が私が持っている情報と違うので再確認していただきたいと思っております。

(事務局)

自治体を「団体」と使うことはあります。表記の仕方として、「市町村が、23市町村」とするのも言葉が重複しますので「地方公共団体」の「団体」という部分をとりました。勤労青少年ホームは、県下に14の施設があると書いておりますが、具体的にはこの白書の中で、どの市町村に、どのような名称で設置されているか、またどのような支援事業をしているかが分かるようにしてあります。全部の市町村にあるわけではないのですが、勤労青少年ホームに関する厚生労働省の指針がありまして、できるだけ全部の市町村に作って欲しいという書き方にはなっています。

それから、子育て支援事業につきましては、市から資料をいただきましたが、再確認をしてみます。

(委員)

支援機間・支援拠点の取り組みということで、4つほど挙がっておりますが、全国的に、サポートセンターがどんどん増えてるように思います。特に、山口県内でも同じ傾向があると思っておりますが、公民館が活動支援センター的な事業を盛り込んで、動き始めてきています。

そういう意味では、公民館を少し調べてみてはいかがかと思います。

公民館も、今後は教育委員会から離れて地域と密着しながら、生活支援をしていく拠点にだんだんなってくるのではないかと思います。とりわけ市町村合併の中で公民館を どういう位置づけにするかを各市町村とも議論しているようです。

行政主体の支援センターになるのではないのかなというのが、懸念される部分ですが、そういう動きが全国的にあるので、確認して頂ければと思います。

（事務局）

鋭い御指摘を頂きました。公民館は、もちろん念頭においておく必要があると思います。ただ、今回調査する中で、もともと基本計画に公民館を入れていないということもありましたが、公民館は非常に数多くて、1市町村にたくさんありますので、白書で紹介しきれないだろうという懸念がありました。

また市町村によっては独自の活動もあるでしょうし、中央公民館的な活動もあれば、もっと地域密着型の細かい地域を担当している公民館もあるでしょうから、教育委員会にも相談して、詳しく状況を把握する必要があるかと思います。

その上で、白書に載せるのであれば、県民活動支援拠点なり、支援機関といった位置づけをどうするかを検討した上で、取り組む必要があるかと思っています。

（会長）

今回出していただきました意見を今回の白書に反映していただくか、また、来年度の検討課題としていただくか、両方あるかと思いますが、事務局の方、どうぞよろしくお願いいたします。

では、次に、議題3の「県民活動タウンミーティング」について、事務局の方から説明をお願いします。

（事務局）

（説明省略）

（会長）

ご質問、ご意見等ございましたら、お願いします。

（委員）

新南陽ふれあいセンターの午後の会は分かったのですが、午前10時から11時まである県民活動団体による活動発表会というのは、周南市でも下関市でもあるということですか。

（事務局）

一応、スペースは確保しておりますので、地元の活動団体の方と協働で、企画をしてまいりたいと思っています。両会場で行います。

（委員）

それから、中・高等学校先生への案内は下関会場はありますが、周南市の方は学生に直接関係がないということで、案内をしないのですか。

（事務局）

総合的な学習の時間等の教材化という視点から、大学の場合は連携させやすいのですが、市民活動のネット化の方は、直接関連がないものですから、控えております。

(委員)

事業者の参加要請(下関会場)で、大学生のインターンシップの理解のためにということが書いてありますが、これについて説明をお願いしたいのですが。

(事務局)

具体的には、梅光学院大学が中心になると思いますが、大学生がインターンシップ等で企業にお世話になっていることもあるということも踏まえて、大学生のNPO活動の実情について、企業の方にも来ていただいて、理解をいただき、また、一緒に育てていただきたいという趣旨で掲げています。将来的にはNPOへのインターンシップということも考えられますので、何らかのヒントが得られればと期待しています。

(会長)

このタウンミーティングにつきましては、今回で、審議会での検討は最後になります。意見交換会に参加していただく審議会委員の方をお願いしなければならないんですか。

(事務局)

是非出席したいという方がいらっしゃればありがたいのですが、難しいようでしたらこちらで、案をお示しして、お願いしたいと思います。

(会長)

それでは、事務局案をお願いします。

(事務局)

まず、横田先生には、両会場に出ていただきたいと思います。周南市会場につきましては、高本委員、平田委員をお願いしたいと思います。下関市会場の方は、樋口会長、船崎委員に出ていただければと思います。いかがでしょうか。

(各委員、了解)

(会長)

本日の議題は、以上で終了いたしました。各委員の方々、特にご意見ございませんか。

(委員)

先ほど、林委員が言われたことに関連するのですが、県民活動を本当に浸透させるには、青少年の教育が大事だと思います。今年度の白書で、教育委員会もチェックされているという話でしたが、迫力がないと思いますので、次年度以降は、やはり教育委員会の意向というものを強く持っていただけたらと思います。やはり、これがなくしては、県民活動の浸透がないのではないかと思いますので。

(委員)

県民活動タウンミーティングなんですけど、今回、下関に行かせていただくことになりましたが、例えば、石川委員も、県立大学の学生さんと一緒に浴衣のイベントの関係で、活動されていらっしゃいますし、藏重委員も、ネットワークということであれば、子どもという切り口で、色々な団体とのネットワークを構築されています。そういう意味で、他の委員さんも、是非ご一緒に出ていただき、意見交換の場で、是非ご発言をいただき、色々なことを共有できたらよいと思います。

(委員)

県民活動白書ですけども、非常に良くできていると思いますが、ちょっと堅いなという感じがします。

(委員)

写真は、トリミング等ができたらいいいですね。

(委員)

著作権は、山口県庁ですよ。デジタルで処理されていると思いますが、8月に、日本青年会議所の昨年度の各事業のランク付けをやって、優等賞を決める審査会があって、審査させてもらいましたが、書類にしたら、莫大な量でした。それが、CDだと1枚に楽々収まります。それぞれのJCが工夫を凝らして、動画はもちろん、音楽も出てきますから、見る者には非常にすばらしいものでした。

山口県も、今年はともかく、試作品ぐらいで、NPO団体や、興味のある団体に素材提供されて、CDに焼き直しをしていく、あるいは編集し直していき、あとあと使えるものにしていくことができないだろうかと思います。

せっかく白書ができて、プラスして活動事例などが盛り込めれば、もっとインパクトのあるものが、残していけるし、データとしても保管しやすいと思います。

(会長)

ありがとうございました。それでは、事務局の方から、次回のお知らせがあると思いますが。

(事務局)

次回でございますが、11月7日に第1回目の始めの議題で決めていただきました基本計画検討委員会を開催する予定ですので、委員の皆様、よろしくお願いいたします。

(会長)

検討委員会の皆様、よろしくお願いいたします。

審議会の方の今後の日程はよろしいでしょうか。

(事務局)

今後のスケジュールにつきましては、検討委員会の方を2回ないし、3回予定しております。審議会の全員の会議につきましては、2月か3月に、第4回目を開催したいと考えております。

(会長)

本日の会議を終了したいと思います。ご審議どうもお疲れ様でした。

(以上)